



Title	道路工夫の夢
Author(s)	森元, 昭
Citation	大阪公衆衛生. 1964, 14, p. 17-17
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/84606">https://hdl.handle.net/11094/84606</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

午前8時、富田林の自宅を“my car”で出発した彼は巾着20mの外環状線に乗って、快適な出勤途上についた。羽曳野市に入るや、新装なった名阪国道に乗り、八尾飛行場を眼下に見下しながら5分も走れば、巾着120mの中央環状線に入る。片側だけで高速、緩速、鈍速、側道及び歩道の5地帯に9車線というすばらしい道路で、グリーンベルト、街路樹が美しく道路を彩どり、高架高速の地下には、下水処理場、塵芥焼却場などが設けられており、10年前には東大阪をうづめつくした屎尿、塵芥も大阪の突を包んでいた煙とともに、その姿をみることができなくなってしまった。

時速100kmのスピードも何とも感じない。またたく間に関西線、近鉄大阪線、奈良線を越え、河内市に至って

築港枚岡線に入る。60mの道路を一路西進して谷町を経て府庁に到着する。走行35km、所要時間僅かに30分。車を地下室に納めて席に着くや、まず一服紫煙をながめながら今日の作業日程を考える。平和な朝の一刻である。

6年有余に亘ってお世話になった衛生部と別れて、辞令一本で飛び込んだ道路工夫の職も、仲々生やさしいところではない。デコボコ、ドロコ、掘返し、ダンプカー、踏切等等、府民の声もなかなか手きびしい。そのため私等道路工夫があるの

だと思えば、あきらめもつく。下水処理も道路周辺の清掃も衛生と密接不離だが、市役所や保健所にたのむよりも、道路工夫の方が苦情をいい易いらしい。公僕またつらい哉である。

(大阪府土木部道路課長補佐)

## 道路工夫の夢

森元 昭